

智徳の真玉

学校教育目標：命・人権を大切にし、豊かな心を持ち、
学ぶ力を身につけた、たくましい子どもの育成
ホームページ<http://hhigashi@town.aisho.lg.jp>

R2. 8. 20発行
秦荘東小学校
発行責任者
校長 今村 増弘

2学期のスタート！

子どもたちにとっては、例年のように自由に移動することができない上に、期間も短く、消化不良の夏休みであったかもしれません。命の危険を感じるような暑さもあり、どのように過ごすといいいのかと思い悩んでいただく夏休みであったかと思います。2学期がスタートして、何より命に関わる事故・事件にあうことなく、また新型コロナウイルスの感染者が増えてはいますが、子どもたちをはじめお家の方も感染することなく落ち着いていることにほっとしています。新しい生活様式の中で、子どもたちの健康管理をしっかりとしていただき、本当にありがとうございます。酷暑の中、登下校中の熱中症に注意しながらのスタートとなります。さしあたり、24日（月）から28日（金）までは、低学年も6時間目に家庭学習に取り組むなどして、全校がそろって下校する方向でいきたいと考えています。地域での見守りをよろしくお願いいたします。

秋が確実にやってきています

日中は確かに数分屋外にいただけで汗びっしょりになってしまいますが、夜寝る頃には、熱帯夜という感じではなくなってきたかと、ほっとしています。新型コロナウイルスの感染拡大防止の対策に翻弄されていた4月末から、気がつくと田植えの準備が着々と進められ、学校の周りの風景は早苗の緑に包まれていました。そして今、長引いた梅雨のため、日照不足は否めないかも知れませんが、黄金色に色づきはじめてた稲穂が、頭を垂れています。中には、強風に煽られたのか、たわわに実った稲穂の重さに耐えきれず、倒れかかっている田んぼも見かけます。間もなく稲刈りをされるコンバインが走っている姿を目にすることでしょう。子どもたちは、暑い暑いと言いつつも、早苗の緑から、麦秋を経て、今黄金色に変わろうとする田んぼの中を、登下校してきます。農作業をされる地域の皆様に見守っていただき、意識することはなくても、日々我がふるさとの豊かな自然に囲まれて成長していきます。小学生の今は気にもとめていないでしょうが、この豊かな自然、温かい地域の皆様で囲まれて成長していることは、心の奥底にふるさとに寄せる思いを育んでいるに違いありません。新しい生活様式の中で、外出を控えなくてはならない今、改めてふるさとを見つめてみるよい機会かもしれません。「実るほど頭を垂れる稲穂かな」そんな言葉がふと頭をよぎるふるさとの風景です。

もう一度感染拡大防止の徹底を

先日、6年生の校外学習の下見に、6年生担任の先生方と一緒にに行ってきました。校外学習を受け入れていただく施設も、どこも感染防止対策に懸命に取り組んでくださっていました。幸い、6年生48名に対して、宿泊施設の部屋は、合わせると150畳もあります。1人が畳3畳を使って寝ることができます。また、学習内容も自然体験がメインなので、英虞湾でのシーカヤックや海ほたるの観察、磯遊びなどを体験します。宿泊施設も自然の家を秦荘東小学校が貸し切りの状態で使わせていただけます。食事も、バイキング形式から、ワンプレート形式で、テーブルを広々と使ってのものにさせていただくことができました。あとは、子どもたちをはじめ、教職員、保護者、地域での感染者が出ないように感染拡大防止を徹底することです。1学期末のように安定した状態で、6年生から始まる校外学習を、実施していきたいと考えています。感染してしまうことが悪いのではなく、みんなでできることを徹底して防止に努めたいということです。ただ、どれだけ注意をしてもウイルスは目に見えません。どこでどうして感染するかは分かりません。滋賀県下の感染者数が長く100名でストップしていた頃に比べ、感染者数が増えてしまっていることにやや慣れてしまった自分があります。引き続き、感染拡大防止のための取り組みを徹底したいと考えています。2学期に予定している学校行事・校外学習等、例年とは形を変えての実施にならざるを得ませんが、縮小してでも体験させてやりたいと考えています。ワクチンが完成するまでは、ウィズ コロナの中での生活が続きます。『命と人権を大切に』ことを念頭に、2学期の学習が進められますよう、今一度ご協力をよろしくお願いいたします。何とか、滋賀県から、そして日本から、世界から、新たな感染者がいなくなる日を1日も早く迎えられるよう、願ってやみません。

夏休み中の子どもたちをはじめとする健康管理、本当にありがとうございました。おかげで2学期のスタートを無事に切ることができました。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。